

パスカル Pascal, Blaise 1623~1662

フランスの思想家、科学者、宗教家。

中部フランスのクレルモ(現クレルモン＝フェラン)に生まれる。法服貴族の父エティエンヌはオーヴェルニュ地方の租税法院の副院長であったが、1631年に官を辞して一家でパリに移住し、科学者の集まりに参加してパスカルを教育した。16歳のとき、パスカルは「円錐曲線試論」を著し、幾何学における「パスカルの定理」を明らかにした。その後、一家は父が徴税担当副総監になったのを機にルーアンに移住するが、彼は父の徴税業務を軽減する目的で歯車による計算機を発明し、また「トリチェリの真空」の報が伝えられると、実験によりこれを証明して「パスカルの原理」を確立した。

24歳のとき、パスカルはポール・ロワイヤル派の宗教者に感化を受け、宗教的自覚を体験し、厳格な信仰へと導かれた(第一の回心)。その後パリに戻り社交界の教養人(オネットム)と交流したが、31歳のとき、神との出会いというべき宗教的体験を得て、信仰に身を捧げることを決意する(第二の回心)。以降、ポール・ロワイヤル運動の同調者となり、理論的指導者であるアントワヌ・アルノーがソルボンヌから告発されると、擁護のために論争書簡『プロヴァンシアル』(1656~1657)を執筆し、イエズス会の自由主義的な道徳神学を批判した。この論争からキリスト教の真理を明らかにする「キリスト教護教論」の構想を持つが、1659年の初頭、重病に陥り1662年に死亡したため、著作は未刊に終わった。『パンセ』はこの著作の草稿を中心に編集された遺稿集である。

Great Books 22 パンセ(Pensées)

パスカル自身が生前刊行した著作ではなく、体系的に一つにまとめられた書物でもない。1670年、友人らにより『死後、書類の中から見出された、宗教及び他の若干の主題に関するパスカル氏の断想(パンセ)』との題名で草稿に手を加えられた版が最初の出版で、これをポール・ロワイヤル版という。

『パンセ』にはこのほかにいくつかの版がある。代表的な版はブランシュヴィック版(1897年)で、人間精神の類型から文体に関する人間的考察へと順を追って、テーマ別に断章を配列しており、日本の翻訳は基本的にこれを底本としている。他には写本原稿に依拠するラフュマ版(1951年)があり、近年では写本を底本として研究が進められている。

ブランシュヴィック版は全体を、精神と文体とに関する思想 神なき人間の惨めさ 賭けの必要性について 信仰の手段について 正義と現象の理由 哲学者たち 道徳と教義 キリスト教の基礎 永続性 表象 予言 イエス・キリストの証拠 奇跡 論争的断章の14章に分け、924の断章で構成している。

『パンセ』の内容は次のようなものである。人間は、真理と正義を渴望しつつもそれを実現できないので、無為に耐えられず、賭博や戦争という「気晴らし」に身をやつして、不幸の意識の根源にある「倦怠」を直視しない。こうした人間につきまとう不幸の意識は、逆に人間の高貴さの証ともなる。樹木にも動物にも不幸の意識はないが、人間の惨めさはそれを意識することにおいて、偉大さの源となる。しかし「偉大」と「悲惨」を意識するだけでは状況を解決できない。しかしながら自我の基本的在り方としてのエゴイズムとそれに伴う不正と不幸がキリスト教の提示する原罪から来ているとするなら、旧約・新約聖書の信憑性を論証することは、この仮説の正しさを証明することになる。パスカルは、宗教を前提としない人間学の立場から「悲惨」と「偉大」を持つ人間の不可解さを認識させ、信仰の必要性和正当性を示唆するのである。

パスカルが後世のフランス思想に与えた影響は大きい。啓蒙主義、ロマン主義、実存主義、構造主義などの思想潮流に対し、人間を根底から問う姿勢は、常に思想的課題を提起する。それ故、現代においてもフランス思想史のなかで屹立した思想家となっている。

Key Phrase 人間は考える葦である

人間はひとくきの葦にすぎない。自然のなかで最も弱いものである。だが、それは考える葦である。彼をおしつぶすために、宇宙全体が武装するには及ばない。蒸気や一適の水でも彼を殺すのに十分である。だが、たとい宇宙が彼をおしつぶしても、人間は彼を殺すよりも尊いだろう。なぜなら、彼は自分が死ぬことと、宇宙の自分に対する優勢とを知っているからである。宇宙は何も知らない。だから、われわれの尊厳のすべ

ては、考えることのなかにある。われわれはそこから立ち上がらなければならないのであって、われわれが満たすことのできない空間や時間からではない。だから、よく考えることを努めよう。ここに道徳の原理がある。

< 前田陽一，由木康(訳)『世界の名著 24 パスカル』「パンセ」 中央公論社 >

原文では、L'homme n'est qu'un roseau, le plus faible de la nature ; mais c'est un roseau pensant. パスカルは聖書に出てくる植物を人間に譬えることによって、思考すること、考えることに人間の道徳の根源があるといい、そこには確固たる清冽な自己意識が確認できる。

◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 パスカル『パンセ』注解 1～3 / 前田陽一(著)
岩波書店 1980～1988年刊 <135.3/23/1～3>
- 📖 パスカル著作集 6～7 パンセ / 田辺保(訳)
教文館 1981～1982年刊 <135.3L/22/6～7> 資料番号 10220408, 10220416
- 📖 パンセ / 由木康(訳)
白水社 1978年刊 425p <135.3K/21> 資料番号 10220341
- 📖 世界の名著 24 パスカル / 前田陽一(編)
中央公論社 1967年刊 562p <080/5/24> 資料番号 12784419
* 『パンセ』前田陽一，由木康(訳)
- 📖 パスカル全集 第3巻 / 松浪信三郎(訳)
人文書院 1959年刊 702p <135.3/8/3> 資料番号 10220192
- 📖 Great books of the Western World vol.33 Pascal / Robert Maynard Hutchins(ed)
Encyclopaedia Britannica 1989年刊 487p <080/G/33> 資料番号 20257481
- 📖 Pensees(texte etabli par Leon Brunschvicg) / Dominique Descotes(par)
Garnier-Flammarion 1976年刊 376p <Y135.25/1> 資料番号 21171400

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 パスカル『パンセ』を読む(岩波セミナーブックス) / 塩川徹也(著)
岩波書店 2001年刊 254p <135.25LL/4> 資料番号 21540331
- 📖 中村雄二郎著作集 第2期 9 パスカルとその時代 / 中村雄二郎(著)
岩波書店 2000年刊 372p <108JJ/101-2/9> 資料番号 21301064
- 📖 パスカル奇蹟と表徴 / 塩川徹也(著)
岩波書店 1985年刊 360p <135.3T/28> 資料番号 12306148
- 📖 人類の知的遺産 34 パスカル / 伊藤勝彦(著)
講談社 1981年刊 354p <280.8K/13/34> 資料番号 10497394
- 📖 パスカルにおける人間の研究(岩波文庫) / 三木清(著)
岩波書店 1980年刊 233p <I135/ミ> 資料番号 12251369
- 📖 パスカル(作家と人間叢書) / J.メナ-ル(著) 福居純(訳)
ヨルダン社 1974年刊 248p <135.3F/19> 資料番号 10220325
- 📖 パスカル / J.メナ-ル(著) 安井源治(訳)
みすず書房 1971年刊 274p <135.3B/14> 資料番号 10220267
- 📖 パスカル(岩波新書) / 野田又夫(著)
岩波書店 1953年刊 230p <135.3/2> 資料番号 10220119